



大前 裕也 議員

(改革未来・自民の風・加西市民の会)



耕作放棄地の現状と獣害との関係を問う

問 耕作放棄地の分布、地域別、町別を市として把握していますか。

答 農業委員会で管理している遊休農地を耕作放棄地として認識し、対応を行っています。令和2年度以前は算定方法が異なり比較できないため、令和3年度以降の推移として報告します。令和3年度は425アールで42筆、令和4年度は447アールで95筆、

令和5年度は511アールで107筆、令和6年度は588アール103筆となっています。

問 加西市が策定した有害鳥獣対策に関する計画の中には、農作物への被害が深刻化していると明記され、主要な被害獣としては、イノシシ、鹿が位置づけられている。耕作放棄地はイノシシ、鹿の隠れ場所や侵入ルートになっているが、市として被害発生に影響しているとの認識を持っているか。私が住んでいる付近では、畑にイノシシがたくさん出ており、聞いた話では、何頭か捕獲したということも聞いている。この耕作放棄地の問題について、市として認識を持っているか。

答 市では加西市鳥獣被害防止計画を策定しており、鹿、イノシシ、アライグマ、ヌートリア等の有害鳥獣の対策を推進しています。被害相談を受けた場合は現地確認を行います。鹿、イノシシは基本的に山や森からの出没と考えています。耕作放棄地が点在しているため、鹿、イノシシが安心して潜めるほどの面的放棄地は多くはないと認識しています。しかしながら、アライグマ等の小動物については、そのような耕作放棄地の中に潜んでいる可能性は十分にあると考えています。



丸岡 弘満 議員

(改革未来・自民の風・加西市民の会)



栄養バランスがとれた安心安全でおいしい学校給食

問 以前、給食に関するアンケート調査が行われていないことを指摘したが、その後、調査を行った結果、どのように改善につながっているのか。教育委員会の分析が十分とは言えず、結果が現場に反映されにくいと感じている。中学生では残食量が多く、食べる時間が短いという課題が続いている。配膳準備に時間がかかり、実際の食事時間が圧迫されている現状も改善が必要ではないか。

答 アンケートが目的ではなく、取った後が大事だという議

員の指摘に同感です。アンケートは意見を把握する重要な手段であり、分析の精度向上は課題と認識しています。今後は回答内容を細かく分類し、改善点を明確にしたうえで学校現場と共有し、給食運営に反映していきます。中学生の残食や食事時間の確保については、学校と連携し、指導方法や配膳体制の見直しを進め、効率的な準備ができるよう改善を図ります。

問 給食の質を理解してもらうには、実際に味わっていただく機会が不可欠。保護者や地域の関係者が参加できる「給食試食会」を開催してはどうか。特に南部給食センター2階には会議室があり、小荷物専用昇降機240万円を追加工事で設置したのは食育セミナーのためということであった。

答 ご提案の試食会については、南部給食センターの会議室を活用することで実施は可能です。安全管理や運営方法を整理したうえで、希望者を募り、保護者や関係者の皆さまに給食を味わっていただける機会を設けたいと考えています。給食のインスタグラムで調理作業の様子も動画や画像で伝えていますが限界があります。試食会はアンケートでは得られない生の声を伺う貴重な場となり、実施に向けて準備を進め、給食の質向上と食環境の改善につなげていきます。

【実際に提供されたメニュー】

唐揚げは1個でも大きさが魅力

